

★週末夜間自粛の階級の本質＝大西 広

世間では「どう対策するか」という「政策論」にばかり気が向いているが、現に行われている「対策の本質」を根本から考えようとする議論が皆無となっている。マルクス主義者に今決定的に不足していることは「政策論」より「暴露」である。具体的には

- ① 資本制下の労働者は自分の持っている 24 時間のうち資本家に売り払った時間が「労働時間」、売り払わずに自分の下に残した時間が「自由時間」であり、これはほぼウィークデイと週末に対応する。そして、資本家階級はこの後者だけをコントロールしようとしている。資本家が労働者を搾取する時間は自由にしたまま、労働者にわずかに残された自由時間はコントロールされているのである。もちろん、この結果、労働者消費に関わる部門の資本家の営業にも影響が出、よって政府は慌ててそれへの対策を練っているが、この話の出発点に資本家にやさしく労働者に厳しい政府の態度があることを知らなければならない。(これは企業も個人も同様にコントロールしている中国と対照的である)
- ② 感染の疑いがある労働者は自宅待機せよと今はなっているが、ここまでの日本資本主義のイデオロギーは「風邪くらいで仕事を休むな」というものであった。ベンザエースのコマーシャルはそういうものであった。が、ここに来て、風邪と区別のつかない症状の労働者が出勤すると「なぜ出勤したのだ」と怒られる。あまりに自分勝手な資本家の言い分が常にまかり通っている。
- ③ これは「階級問題」ではないが、アメリカ第七艦隊所属で横須賀に停泊中の空母ロナルド・レーガンでも感染者が続出。基地内には3月末で5人の感染者が確認されているが、その後の情報は公開されていない。アメリカは中国に「情報が公開されていない」と抗議するが、自分の情報は公開せず、パスポートも持っておらず、よって日本の入国管理もされていない横須賀のアメリカ軍人が横須賀市内を自由に歩いている。日本人は自粛させコントロールしてもアメリカ軍人はノー・コントロール。これが「対米従属の本質」である。

(以上)